



◇誰にとってのエコ？ 誰にとってのSD？ 村田 武一郎(NAED 理事長)……1頁

◇なら歴史芸術文化村へ行ってきました 井ノ本直三(NAED 副理事長／地域P&C 塾第2期生)……2頁

◇地域づくりのために、人を理解する読書 堀越正夫(NAED 専務理事・事務局長／地域P&C 第3期生)……4頁

## 誰にとってのエコ？ 誰にとってのSD(Sustainable Development)？

村田 武一郎(NAED 理事長)

皆さま、今年もよろしくお願ひ致します。

コロナ禍がこんなにも続くとは……と、昨年も、一昨年も、書きました。感染力がより強いウィルスの蔓延、多くの人たちの疲弊……。今年こそ、誰もが幸せを感じられる、新しい展開が始まる年であることを願ひます。

昨年10月下旬に放映されたNHKのクローズアップ現代「それ本当にエコですか？徹底検証！暮らしの中の環境効果」は、かなり衝撃的な内容の情報番組でした。以来、表題のことが気になっています。

番組内容をごく簡単に紹介します。レジ袋からエコバッグへの転換は、ひとつのエコバックを50～150回も使わなければ、CO<sub>2</sub>排出量は、レジ袋利用によるCO<sub>2</sub>排出量を下回らないそうです。ファーストフード店などで使われているプラスチックカップとリユースカップを比較しても、同じようなことがあるそうです。

また、あるメーカーが2004年に遭遇した“炎上騒動”も紹介されていました。このメーカーは、植物由来の食器用洗剤を半世紀も前から提供している環境意識が高い企業です。ボルネオ島で洗剤の原料となるパーム油がとれるアブラヤシの農園を開発し、環境に優しい洗剤を日本で提供していたのですが、その農園開発により、熱帯雨林が急速に減少し、特にゴウの生息環境に悪影響を与えていることが報道され、批判されたのです。このメーカーの社長の「消費者の方へしか目がいていなかった」という言葉が印象に残ります。

さて、私たちは、仮に週2回ペースで買物に行くのであれば、同じエコバックを1年間使い続けなければ、レジ袋利用によるCO<sub>2</sub>排出量を下回らないのですから、次から次へとエコバックを購入しては、いつまでたってもエコ行動にはつながりません。エコだから、使い勝手が良いから、デザインが良いからと、幾つものエコバックを購入していることはないでしょうか？

最近、エコを謳い文句とする商品が増えています。販売者は、エコを謳い文句に購入を呼びかけています。製造・販売者は、消費者に興味をもってもらおうと、販売数量を増やすことにしか意識がいておらず、レジ袋利用の場合とのCO<sub>2</sub>排出量の比較検討など考えたこともないはず。また、考えるための情報も不足しています。消費者も製造・販売者も良かれと思ってやっている行動に落とし穴があることに留意しなければなりません。

家の中を見渡せば、エコバックが5袋も……。これでは、今後5年間も、買物行動に関するCO<sub>2</sub>排出量がレジ袋を利用していた時のCO<sub>2</sub>排出量を下回ることはありません。たぶん、その間にも、自分が買わなくても、どこかから貰ってエコバックが増え続けるのでしょから、問題は厄介です。

レジ袋をはじめとするプラスチック製品が川や海へ流出した場合、いずれ海でマイクロプラスチック化し、魚や貝が誤飲し、その体内に蓄積されるといった環境問題を引き起こしていますから、そのような製品の削減が必要です。それだけではなく、私たちの生活とモノへの過度な依存を減らし、生産～消費～廃棄に至る社会経済全体の仕組みを見直さなければなりません。

1992年の地球サミットから30年、ようやくエコ意識が浸透しつつありますが、誰にとってのエコ、誰にとってのSD(Sustainable Development)なのかを、問い続けていく必要があります。

## なら歴史芸術文化村へ行ってきました

井ノ本直三 (NAED 副理事長 / 地域 P&C 塾第 2 期生)

### 1. はじめに

皆さまにおかれましては、お健やかに新年を迎えられたことでしょうか。本年もよろしくお願い致します。

2022年3月21日、天理市杣之内町に「なら歴史芸術文化村」がオープンしました。奈良県が国の補助金を活用し、約100億円をかけて整備し、新たな観光地や地域活性化の起爆剤としており、新年の1月12日に行ってきました。既に行かれた方もおられるでしょうが、まだの方には参考にしていただければ幸いです。

### 2. 施設の全体像

敷地約23,000㎡には、文化財の修復作業現場を公開している「①文化財修復・展示棟」、国内外から招く芸術家との交流や芸術品鑑賞ができる「②芸術文化体験棟」、農産物の直売や伝統工芸品を販売する「③交流にぎわい棟」、道路交通情報や周辺観光情報などを集約する「④情報発信棟」とホテル「フェアフィールド・バイ・マリオット」を併設した大規模複合施設である。



### 3. 主要施設の紹介

#### (1)文化財修復・展示棟

なら歴史文化芸術村でメインとなる棟であり「歴史的建造物」「考古遺物」「仏教等彫刻」「絵画・書籍等」の4分野の修復工房がガラス越しに見学できる。



#### ①歴史的建造物修復工房

1階には歴史的建造物修復工房として、寺社、民家、城郭などのほかに五輪塔などの石造物も含まれ、近年では、銀行などの近代化遺産の文化財指定も増えてきており、歴史的建造物の修理範囲は多岐にわたってきている。

#### ②考古資料修復工房

歴史的建造物修復工房の隣には、考古資料修復として手前に銅鐸・土器などの出土品、作業道具などが展示されている。

考古資料のうち、古墳や建物跡などを「遺跡」、発掘調査で見つかった土器や石器などを考古遺物と言い、考古遺物は形をとどめているものは少なく、細かくなった破片をつなぎ合わせ復元している。

考古遺物には、金属や骨、木、花粉など様々な種類があり、それぞれの性格に合わせて保存処理や整理作業を行い、当時の姿の復元を目指している。



### ③絵画・書籍等修復工房

ここから地階となり、撮影は禁止であった。絵画修復の作業風景を映像で工程がわかるようになっており、失われた部分を描き足すことをせず、欠損した個所を糊で抑えたり、自然な色を補うことで、残っている絵画が生きてくるようである。こちらの工房は畳敷、掛け軸や冊子、古文書など



様々な資料が置かれていた。

### ④仏教等彫刻修復工房

仏像などの木造建築の修理を行っており、ガラス越しには、手首から先が欠損した小さめの仏像が2体、また、縦に解体した仁王像の腕が展示されていた。

この仁王像は、葛城市當麻寺の仁王門の阿形像と吽形像(像高約340cm、市文化財に指定)のうち阿形像の頭部に二ホンミツバチが約30年前から巣を作っていたと言われ、顔部分の汚損や変色などの影響が出ており、葛城市も當麻寺も頭を悩ませていた。阿形像は口を大きく開けていることから、ミツバチは口から出入りを繰り返し、約5千から1万匹が生息していたと言われている。昨年5月下旬、なら歴史芸術文化村への引っ越しが完了し、約4年かけた修復が計画されている。

なお、上記の4工房は、事前予約制で修復工房見学ツアーも実施されている。

### (2)交流にぎわい棟

県産農産物や伝統工芸品などの直売所で県産食材を使った料理が味わえるレストランも併設。2階には実習室や多目的室で食と農や伝統工芸について体験して学ぶセミナーなども定期的に開催されている。

### (3)芸術文化体験棟

幼児期から大人まで全ての人を対象にアートと気軽に触れ、奈良の伝統文化・地域資源の活用や地域との協働などを通して、アートの楽しみが体験できる。

### (4)情報発信棟

道路や観光の情報に加えて、奈良県全域の歴史文化資源や芸術などの情報を発信している。

## 4. おわりに

奈良県は文化財の宝庫であることは、誰しもが認めるところが、この「なら歴史芸術文化村」は、単に観光で文化財を鑑賞するだけでなく、文化財修復技術を高め、その技術を活かし、奈良の文化を次世代へ伝えるとともに、国の内外に情報発信することが、施設整備の理念と理解している。

この施設が奈良及び天理地域の活性化に寄与することを期待する。

## 地域づくりのために、人を理解する読書

堀越正夫(NAED 専務理事・事務局長／地域P&C 第3期生)

最近、働くことを希望する方や、採用を考えている経営者の方から、採用についての相談があります。人を採用するにも「公正な採用選考」が重視されていますので、その内容を説明します。説明に使う採用に関する大阪労働局の冊子には、その冒頭に「世界人権宣言」が引用されています。その見出しは「人を人としてみる」です。

「人を人としてみる」は、当たり前のように思いますが、どのようなことなのでしょう。冊子には、その解説として、「人を“基本的人権を有する人”としてみる人間尊重の精神が十分にあるかどうか、改めて考えてください」と書かれています。そこから考えると、地域づくりにおいても、人と人のつながり、お互いの尊重が重要です。

第14期地域P&C 養成塾生の方から、塾生に勧める本があれば、教えてくださいというリクエストがありました。その時には、機会がなくお話をすることができませんでした。

当機構では、教科書も作成しています。また、地域づくりの事例や、起業のための知識など書籍はあり、そのような書籍を読むことも必要です。ここで、私がおすすめするのは、小説で、様々な人が登場するものです。外国文学ばかりで、日本の地域づくりとは違うようですが、人間、特に地域に住んでいる人を理解し、尊重すること



が地域づくりの基本と思い、この本を選んでいきます。また、このような小説の登場人物から、「私は影響を受けました」ということです。

(1)人にすすめる本を3冊選んでください。

私がおすすめの本は、次のとおりです。

- ①『グレート・ギャツビー』スコット・フィッツジェラルド
- ②『戦争と平和』レフ・トルストイ
- ③『自負と偏見』ジェイン・オースティン
- ③+α『高慢と偏見、そして殺人』P・D・ジェイムズ

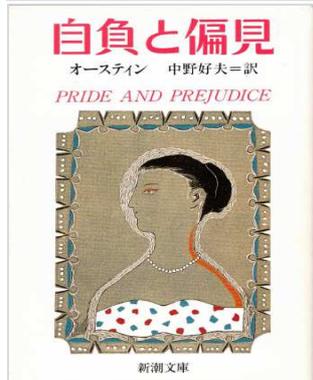
(2)その本が、おすすめな理由は？

この原稿を読んだ人にとって、このような人がいるんだ、という発見がある本を選んでいきます。おすすめな理由は、3つあります。

すべて、小説なので、入りやすく読みやすいのが理由のひとつです。

次に、恋愛や戦争にかかわる読み物であり、男性が主人公なのが2冊、「自負と偏見(高慢と偏見とも訳されます)」は、女性が主人公です。感情移入ができるのではないかと考えました。

最後には、いろんな人が登場していることです。それぞれの人の立場や考えを理解するのに役立つのではないかと想像します。



「グレート・ギャツビー」では、友情と、人との付き合う場合の距離感について考えさせられます。「戦争と平和」は、登場人物が非常に多いので、好きな人物に着目すれば、楽しく読むことができます。アンドレイもしくは、ピエールという登場人物の心の動きを追うと理解しやすいでしょう。今、読むと、1800年代のロシアの貴族がフランス語で会話していることに驚きます。時代によって、文化は変わっていくということが理解できます。

「自負と偏見」は、外見は女性を主人公とした恋愛小説ですが、主人公エリザベスや、その周りの人物が、相手との会話ややり取りでどのような偏見をもっていくかを分析した作品とも読めます。

(3)特に気に入っている箇所がありますか？

『グレート・ギャツビー』の1頁目を読むと、主人公が父親に言われた言葉が書かれています。「ひとを批判したいような気持ち起きた場合にはだな」と、父は言うのである。“この世の中の人みんなおまえと同じように恵まれているわけではないということを、ちょっと思いだしてみるのだ”～中略～「断定的に割り切ってしまうぬということは、無限の希望を生むことになる」という文章です。

(4)選ばれたのは昔に書かれた本が多いようですが、その時代が好きですか？

私は、過去の作家でなければ読まないというわけではありません。現代作家の本も読むのですが、印象に残った本で、皆様におすすめできる本ということで選んでいます。

最近の本といえば、3冊目の『自負と偏見』には、「プラスα」として、P・D・ジェイムズの本『高慢と偏見、そして殺人』を付け加えました。3冊だけのつもりが、4冊目になってしまいました。

この本は2010年に書かれた本で、選んだ中では一番最近の本になります。女性作家のP・D・ジェイムズは、1920年生まれです。1813年に出版された『自負と偏見』の続編ミステリーを、1920年生まれの作家が2010年に出版するという、3世紀にわたる連作ということになり、それだけでも興味深く思います。

楽しく読むことができますので、この中では、読みやすいと思います。読書で人を知るきっかけを得ていただけることを期待します。

